

蛇腹路

壇上伽藍と金剛峯寺をつなぐ小さな道は、蛇腹道（dragon's-belly path）と呼ばれています。高野山の建物の配置は、壇上伽藍を頭として蓮花院までのエリアを胴体と見立て、龍が臥している姿を連想させるよう配置されていると考えられています。この蛇腹道はちょうど龍の腹にあたります。

しかし、「蛇腹」は高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）にまつわる地元の伝承を指して蛇の腹という意味にもなり得ます。この伝承によると、空海が仏教の修道の中心地を設立しようと初めて山に登ったとき、辺りは未開で危険な蛇がたくさんいました。空海は竹からホウキを作り、高野山から全ての蛇を井戸の中へ一掃しました。